令和元年度第１回立川市第３次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第３次観光振興計画協議会
開催日時	令和元年７月３日（水曜日）　午後７時００分～午後９時１５分
開催場所	立川市役所２０９会議室
次第	1. 開会 2. 自己紹介 3. 立川市第３次観光振興計画協議会について 4. 立川市第３次観光振興計画の位置づけ・構成について 5. 立川市第２次観光振興計画の進捗状況について 6. 話題提供について 7. その他
配布資料	1. 立川市第３次観光振興計画協議会について 2. 立川市第３次観光振興計画協議会の位置づけ及び策定スケジュール 3. 立川市第２次観光振興計画の概要 4. 立川市第３次観光振興計画の構成について（案） 5. 立川市第２次観光振興計画の進捗状況について 6. 立川市第２次観光振興計画 7. 立川市シティプロモーション基本指針 8. 明日の未来を支える観光ビジョン（概要） 9. 観光ビジョン実現プログラム 2019
出席者	［構成員］ 会長 岩﨑太郎、副会長 岩下光明、小野和久、都築諒、中田龍哉、穂積計人、及川卓也、嶋津隆文、木嶋雅史、鈴木義嗣、前田千歳、矢ノ口美穂（産業文化スポーツ部長） ［事務局］ 奥野武司（産業観光課長）、津﨑政人（観光振興係長）、岸田知裕（観光振興係）、中澤栞（観光振興係）
話題提供者	前田千歳（東京都労働局観光部振興課長） 「東京都の観光施策について」 高木誠（(株）グッドライフ多摩常務取締役） 「東京マウンテンの取り組みについて」
公開及び非公開	公開
傍聴者数	０人
会議結果及び要旨	１．次回日程は令和元年８月５日午後７時から９時までとする。 ２．次回は、立川市の観光資源等について検討を行うこととし、課題として各自「立川の観光資源」「立川市の現状と将来展望」についてを記載したものを提出する。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

１．開会
２．産業文化スポーツ部長挨拶
　第３次観光振興計画を作っていただくのが主な議題。今年度は第２次観光振興計画の最終年度にあたる。
　立川市は色々な場面でさまざまなコンテンツがあり、観光というキーワードではおそらく周辺の自治体に比べれば恵まれている部分もあるかもしれないが、これから５年後、１０年後を見据えていったときに、立川はどこに向かおうとしているのか、どんなコンテンツを残していき、また、発展させていき、それを続けていくのかは、市行政だけでなく、事業者の皆様、周囲の皆様お一人お一人の力にご協力いただきながら進めていけたらと思う。
　事務局のほうでも、この協議会終了後に、皆さんがぜひ手に取っていただきたくなるような今後の計画を作り上げていければと思っている。また、これだけの方々がお集まりいただいている場ですので、これをきっかけにまた新しいネットワークが広がっていければ喜ばしいと思っている。
　長丁場で任期の長いものになっているが、忌憚ないご意見をそれぞれの立場から積極的にいただき、実りある場になればと思う。

３．委嘱状伝達

４．自己紹介

５．会長選出　　互選により、岩﨑太郎委員が選出された。

６．副会長選出　　互選により、岩下光明委員が選出された。

７．議題
（１）立川市第３次観光振興計画協議会について
（会長）設置要綱の第５条に「必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求めることができる」と記載がある。今後協議を進めていく中で、ご要望があれば事務局までご連絡いただきたい。
（２）立川市第３次観光振興計画の位置づけ・構成について
　事務局より、資料に沿って説明。
（３）立川市第２次観光振興計画の進捗状況について
（Ｆ委員）
　戦略の整備がわかりやすく、ミッションが明確になっている。主な取り組みや事業例はどういった形で出てくるのか、どういった形で始まっていくのか、構造が知りたい。
（事務局）
　事業について、市が「この事業を〇年度にやる」というような進捗管理はしていない。観光振興係がイベントをコントロールしているわけではなく、市内のあらゆる事業者が行なっていく事業であるという認識。
　ここに挙げている取り組み内容、事例は、計画の中に、５年前に計画を作った時にこんなものがあるかな、と可能性として例としてあげたもの。５年の間にどれだけ取り組めたかと同時に、時代の変化でここにぶらさげられるのでは、と自分たちが把握していない、市民が活動しているものについては、行政がすべてハンドリングしていないものもあるので、落とし込めていないところもあるのではと思う。
　本来、計画を作ったあとに、１年に１回でも計画策定に携わった人で都度進捗管理をすべきだったが、そこまでの体制にいたらなかった。今回の協議会を通じて、やり方の検討の余地があろうかなと。
（Ｆ委員）
　全体をすべてフラットにやる、行政がすべてコントロールするものではないかなと思う。重点施策とあるが、６つの戦略の中でウエイトはないか。
（事務局）

戦略の優先順位をつけるようなウエイトの置き方はしていない。
（Ｆ委員）
了解した。
（Ｇ委員）
　これだけボリュームのあるものを、５，６回ですべて議論するのは厳しい。どれをやるか、やらないか、しぼっていかないと、てにおはだけ直してももったいない。何に絞れるかはわからないが、最後優先順位をつけて、やりたいことを絞ったほうがよいのでは。
（会長）
やっている主体が様々で、市としての立場では優先順位をつけるのは難しい。重点施策という形で重点的にサポートする、という位置づけは前回もしているが、事業を絞ってしまうのはなかなか難しいかと思う。
（Ｇ委員）
　一覧にするのはいいが、同じ重要度、同じ密度という形にするのはかえって無責任では。今回はこれでいこうよ、特にここに力を入れようよ、というほうが議論に入りやすいのでは。すべて見るのは、難しい。例えば、飛行場１００年、中央線１２５周年、などアクセントがあってもいいのかと思う。それぞれ一生懸命やっているのは評価した上での話ではあるが。
（会長）
意見として頂戴する。
（Ｆ委員）
　最初なので、論点の投げかけという意味で。Ｇ委員の意見も一理あると思いつつ、事業者同士の関係性をつなぐのがポイントかなと。
　例えば、うどパイは事業者、個社が携わっており、市が「〇〇パイがいいんじゃないか」という話ではない。ただ、事業者同士が連携する関係をつくっていくのをサポートするのがポイントかなと。
　立川という場所は、北海道、沖縄、長崎など、宿泊事業メインの観光とは違う。立川の観光ってなんだろう、そもそも観光とは何か、定義がかわってきている。そのために、ほかの場所との競合力、競争力を保つにはどうするか、それを共有することで、新しい成長戦略で若い人の取り組みにつながるかもしれない。計画の中でソフトとして、考え方として入れて、市民と共有して、個社の活動のつながりをつくっていく、そういった計画になる予感がする。
（Ａ委員）
　Ｆ委員の意見に共感する。最初のテーマと具体的な事業があって、それを紐づけたイメージが強い。行政が「これをやりましょう」といった項目を打ち出し、一緒にやっていく、という関連性が弱い、見えづらいのかなと。それをつなげる政策が必要かなと。
　５年でどんどん状況が変わっていくなかで、観光客も爆買いから経験、見るから体験、日本のハレの日より日常を体験したいということで、都心部から自分の食卓に招いてだったり、立川独自の教育、協力する制度とか。それを招く人を育てる、空き家を民泊にして運営する人を教育する、立川でしかできない体験ができる街にするなどチャレンジできればと思う。
（会長）
Ａ委員の意見は次回会議の議題となっている。ほかにあるか。
〈なし〉

（４）話題提供について
①東京都労働局観光部振興課長　前田千歳様
「東京都の観光施策について
②グッドライフ多摩常務取締役　高木誠様
「東京マウンテンの取り組みについて」

【フリートーク】
（Ｈ委員）

第２次の進捗状況の記載で、実施率１００パーセントとある。当初からの予想以上にできたことは、５００でも１０００でもいいのかなと思ったが、全部フラットになっている。そういったところが見えるといいのかなと。

（Ｉ委員）

外国人対応をしたいほうだが、都内に比べると立川は外国人が少ない。なんでだろうと思う。昭和記念公園もあるのに。

現状は昭和記念公園が主なので逆にポテンシャルがあると思うし、少しでも訪問者が増えれば、もっと魅力的な場所になると思う。まんがぱーく、アニメ、まんがとか、そういったサブカルチャーもコンテンツとして PR できるのかなと思う。

（会長）

新宿にはたくさん外国人観光客がいるが、なぜだろうか。都庁やバスタ新宿があるからか。

（Ｊ委員）

宿泊施設があるから。宿泊してデパートへ行く方などが考えられる。

（Ｉ委員）

MICE を周知するのも一つのやり方かと。

（Ｄ委員）

新しいものを作るのも大事だが、今のものをどうつなげるのかが課題かなと。できれば、少し対象をしぼるというか、千客万来というのもあるが広がりすぎてしまうので、少し濃淡をつけられれば。あとは、住んでいる方、働いている方をどう巻き込めるか。

（会長）

モノレールの乗降客数は増えているのか。

（Ｄ委員）

増えている。

（Ｅ委員）

観光の言葉の定義を、立川市はどう考えているのか。東京都はどう考えているのか。どこかで観光の定義をオーソライズしたほうがいいか。旅行とインバウンドのとらえ方を、共通認識として整理しないと。

（会長）

以前は交流人口とあったが、今は関係人口がクローズアップされている。観光に対する考え方も変わってきている。

（Ｃ委員）

昨年、シビックプライドをテーマとして事業に取り組んできた。単位がまちなのか、国なのか、難しいところではある。日本は好きだが、今の日本人は好きじゃないとも聞く。どこに愛情や誇りを持っていけるのか、というところ。東京都というくくりだと、便利だけど一過性のもの。インバウンドをどう処理していくのか課題かと。

（Ｂ委員）

立川は研究所が多い。そこを観光資源というと変だが、アピールする新しい取り組みもある。東京はある意味ユニークアベニューがないと言われていて、そこの開拓は必要かと思う。

（Ｇ委員）

立川には研究施設がいっぱいある。濃淡つけたほうがいいというのもあり、住んでる人が魅力あるものをつくっていく、その視点が大事かなと。あまり客を呼ぶということよりは、見合った、落ち着いたまちをつくるのもいいのかなと思う。

また、立川はすごくよい場所にある。交通の結節点。立川が立川のことだけ考えるのはもったいない。武蔵村山、国立、国分寺などを一緒に考えると面白い。市域を超えた塊をつくるのが、立川の責任でもある。

（会長）

課長はどう考えるか。

（事務局）

東京都市長会で５年ほど前から、多摩地域の観光とは、魅力とは何かという検討をしていて、その先に、もう少し横の連携をするとか、関心のある人により届けようという施策を始めたところ。

昨年度、観光の主管課長会が立ち上がって、今年で２年目になる。今年は立川市が幹事市であり、具体的な事業を実施していこうという動きがある。秋に食べ歩きやまち歩きを行っている自治体がたくさんあることから、まち歩きのイベントをつなげる、参加者になんらかのメリットがあるような大きなイベントを行う。WG に市職員も入っている。責任というのも、中心としての役割は期待されている部分でもあり、その中でより立川の強みを生かしていくことにつながっていくのかなと。

（Ｇ委員）

広域にこだわりたいのは、東京観光財団が補助を出すならば、単発でないほうが出しやすい、連携しているとおいしいということもある。広域連携の視点は持ちたい。

（会長）

広域連携だと商店街連合会もある。

（Ａ委員）

危機感というのがキーワードか。立川は「俺は食えてるから」というところも聞く。観光資源をつくる必要があるのかなと最近感じる。ブラッシュアップは必要だが、今あるものを発信することが大事かなと。評価が「何人来たか」「経済効果」だけだと、大きいイベントいくつかやればいいということになる。シビックプライドとか、そろそろそういったところに目を向けないといけないかなと。また、立川がただ宿泊地、経由地にならなければいいかなと。都市型観光の目玉である飲食にフォーカスするなどもいいかなと。

（会長）

市民満足度の調査を行っていたと思うが。

（事務局）

例年４月に調査を実施し、今年度は既に実施済みの状況かと思われる。その中で今お話にあったようなシビックプライドの醸成や、観光という定義はなんなのか、どうあるべきなのか、そこの整理の上で、メリハリをつけて、この取り組みに力を入れる、というのもありか。

観光振興計画の進捗状況で１００パーセントいっぱい並んでいるのをみたとき、１００％といっても濃淡も当然あって、まだ足りない部分もあれば、ここはもういいんじゃない、といったのもある。果たしてこれだけやってどこまで愛着につながっているのか、わからない面がある。伝え方、どういったことを伝えるのか、そこを磨く必要はあるのかなと。次回以降も、ある程度ポイントを絞った形でご議論いただければ。

（Ｆ委員）

日本版 DMO の２つの方向性で、1 つは客観主義、マーケティングマネージメントで定量主義、継続していきましょう、ということと、利用者、お客様目線。２つは、新しい価値の提供。既存の事業の磨き上げと、成長戦略として新しい事業を考えるという、２つの柱を回していくのが戦略づくりかなと。そういった議論もいいのかなと。

ほかに基本的なところで、観光資源を磨きあげたり、空き家問題やシビックプライドといった社会問題を観光に取り上げていくとか。

あとは、東京と立川の関係。新宿や大久保。谷根千もある。新しいエキサイティング、懐かしいノスタルジックなまちなど。　立川はどういう位置づけか。どう見られたいのか。郊外という言い方をしてよいものか。あるいは多摩の自然への入り口か。文化都市、芸術都市として価値を提供する、公園で癒される、楽しめる街で行くのか、どう見られたいのか、ということが議論の設定でいいのでは。

立川の価値とは。立川にいいものがあるよ、だけでなく、広域のハブになるという話もそうだが、いろいろなものを考えている、真剣に取り組んでいるという姿勢を打ち出していくことが大事かなと。

岩手はおもち文化、市内のもちがすばらしい。ということから、情報をあつめる、文化のハブになるまちになるという発信、ブランド化、聖地化をやってきている。立川のポテンシャルとして、ハブになることも大事かなと。

８．次回の日程及び事前課題の提出を確認して閉会。